

山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部は、地域創生の観点から健康医療に関わる課題等に積極的に取り組み、教育・研究を通じて様々な地域社会や国際社会の発展に貢献しうる人材を輩出するという、地方公立大学薬学部としての教育・研究上の使命に鑑み、本学部の「薬学をとおして人々の健康を守る」という志に基づいた学位授与方針に示す資質・能力を習得するため、以下の教育課程を編成する。

- 1) 「薬学人としての教養と倫理観、地域愛、リーダーシップ」を醸成するために、以下に示す総合教育科目群を受講する。
 - ・幅広い教養と人命を最大限に尊重することのできる人間性豊かな人材を育むことを目的として、「一般科目」で人文科学に関する様々な科目を受講する。
 - ・薬学人としての基本姿勢を学ぶため、医療倫理教育やヒューマンズ教育科目を履修する。
 - ・地方公立大学薬学部として地域愛を高めるため、山口県や山陽小野田市の学術文化に関する講義を受講する。
 - ・所属するコミュニティーにおいて、薬学・健康に関わるリーダーとして活躍するために求められる、薬学的素養（意欲、使命感と責任感、知識、技能、態度）を養うための科目を履修する。
 - ・地方公立大学薬学部として、地元をはじめ様々なコミュニティーにおけるキーパーソンとして貢献する意識を高めるために、山口県や山陽小野田市の学術文化に関する講義を提供するとともに、山口県内の病院や薬局、製薬関連企業等の見学の機会やその第一線で活躍する県内薬剤師等との意見交換の場を提供する。
- 2) 「薬学人としての基本的な知識・技能と、それらに裏付けられた応用力」を習得するために、以下に示す教育課程を年次進行で受講する。
 - ・1年次では、薬学教育の基本的事項を習得するため、薬学の概略や物理・化学・生物の基礎を身につける科目に加え、基礎薬学科目の初歩的科目群、さらに、近年の薬学分野で必須の情報リテラシーや統計学の基礎科目を受講する。
 - ・2年次では、1年次基礎教育を基に、薬学教育の土台となる基礎薬学科目（物理化学系、有機化学系、生物・生化学系、解剖・生理・免疫学系）を中心に、講義・演習・実習を組み合わせる体系的に学ぶことができる科目を受講する。また、医療・社会健康薬学に関する基礎科目も受講する。
 - ・3年次では、より実践的な基礎薬学科目及び医療・社会健康薬学に関する基礎科目に加え、学修者自身が多様性をもって志望するキャリアに沿った薬学教育の中でもより専門性の高い科目を受講する。すなわち、患者情報に応じた最適な薬物治療を実施す

る総合医療薬学を医療系・衛生系実習と併せて集中的に学習する。また、創薬で欠かせない最新の専門知識を習得する科目を受講する。

- ・ 4年次では、調剤、服薬指導、チーム医療など、薬剤師としての職務に必要な知識・技能・態度を身に付けるための科目を履修する。また、5年次の実務実習に向けた薬剤師実務の能力を習得するための科目を受講するとともに、その知識と技能を確認する共用試験（CBT、OSCE）を実施する。なお、合格者のみが5年次の実務実習に参加可能である。
- ・ 4年次～6年次の期間、それまでに習得した基本的な知識・技能を活かして、課題発見・問題解決能力などを含む総合的薬学研究遂行能力を修得するため、卒業研究を受講する。すなわち、薬学部の各研究室に配属され、担当教員から教育指導を受けながら各自に与えられたテーマについて研究活動を継続的に行う。また、研究室内外で実施される各種セミナーや学会等に参加し学術発表を行い、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等も修得する。
- ・ 5年次では、病院と薬局双方の現場での薬剤師業務を通じて実践的かつ総合的な臨床薬学能力を習得すべく、病院薬局実務実習を受講する。
- ・ 6年次では、薬学人としての知識の総合力を高めるため、薬学教育を総括する科目を受講する。また、4年次から取り組んできた卒業研究の内容を卒業研究論文として取り纏めると共に、その成果を発表する。

3) 「薬学人としての問題発見・解決能力と研究遂行意欲」を育成するために、

- ・ 1・3・4年次の開講科目で実施されるPBL（Problem-Based Learning）やSGD（Small Group Discussion）を含むアクティブラーニングを通じて、問題点の洗い出しや論点の整理、問題解決のためのプランニングなど、問題発見・解決能力の醸成と基本的な技能を習得する。
- ・ 学生実習や実務実習、卒業研究において、自身が得た経験と観察、実験・研究データから様々な原因・理由を考察し、他のメンバーやグループなどとの様々な議論や意見交換を経ながら問題解決の糸口を見出すための実践的な技能を取得する。更に卒業研究では、問題解決手法を自ら実践し、その結果をもとに更なる改良・改善を目指すことで、高い研究遂行意欲の醸成を図る。
- ・ 収集情報の的確な整理・分析に極めて重要な統計学関連の講義を受講する。

4) 「薬学人としてのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力」を習得するために、

- ・ 医療機関の他職種連携・協力（チーム医療）においてそれぞれの立場を理解し、薬剤師として積極的に参画することで地域医療に大きく貢献する意識を醸成する科目を受講する。
- ・ 幅広い教養と薬学人としての基本姿勢を学ぶために、1年次開講科目でスモールグループ

プディスカッションを積極的に実施し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の意識づけと基本的な技能を習得する。

- ・学生実習や実務実習、卒業研究において、各実習グループ・研究グループ内でのデータ共有や考察を実施し、他のメンバーやグループなどとの様々な議論や意見交換、更には学術発表をはじめ様々な発表を経験することで、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の一層の向上を図る。
- ・国際社会で必要不可欠な言語として、英語科目を提供する。また、本科目では、理解度・習熟度に応じたグループ別指導を実施するなど、第二言語である英語のきめ細かい指導により能力育成を行う。
- ・薬学分野の専門英語の基礎力習得のために、科学英語を提供する。
- ・卒業研究では、与えられた研究テーマや配属された研究室の研究内容に関する世界の最新研究動向について俯瞰的に捉えその詳細を理解するために、国際的な研究論文を解読する機会を提供する。更には、研究成果が国際学会や英文科学誌に投稿するに値する場合は、その発表の機会を提供する。

◆学修者が自身の将来を見つめながら、成長を実感できるために（学修成果の評価方法）：

- ・本プログラムの各科目の成績は以下の手法により評価を行う。学力については主に授業における筆記テストおよび課題レポートによって能力を点数化し評価する。アクティブラーニングを用いる科目では筆記テストあるいは制作物、レポートおよびプレゼンテーションの評価を、ルーブリックを用いて行う。「卒業研究」では研究課題への取り組みに関する論文調査報告、進捗状況報告、及び成果報告としての卒業論文および卒業発表を、ルーブリックを用いて評価する。各科目の学習内容・水準については、大学で定める基準を用いて行う。
- ・学修者はポートフォリオを用いて自身の学びの成果を記録していく。将来の薬学人像に近づきながら成果を積み上げていけることを実感する。最後に、DP達成度として6年間の修学を通じて学位を得るにふさわしい学びが行なえたことを、ルーブリックを用いて評価する。